

発達心理学

専門教育科目 / 4 単位 / T 授業

担当教員 加藤 由美

■使用テキスト 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦(編)『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房

◆参考テキスト 無藤隆(編)『発達心理学』ミネルヴァ書房 その他学習指導の項を参照

講義概要・一般目標

発達心理学では、人間の発達の筋道を理解し、適切な援助につなげるために、発達の各段階における心の機能の特徴について学習します。テキストは、I章「胎児期・新生児期」、II章「乳児期」、III章「幼児期前期」、IV章「幼児期後期」、V章「児童期」、VI章「青年期」、VII章「成人初期・中期」、VIII章「成人後期・老年期」の順に展開され、IX章「発達を援助する」、X章「発達を考える際に」の2章が加えられています。テキストの各章各項目の概要を把握するとともに、社会性・知覚・認知・思考・言語・社会性・臨床的な問題などの各領域や類似したトピックごとにノートにまとめて整理し、その繋がりをしっかり把握することが重要です。

到達目標

- 1)人間の一生における発達の筋道について説明できる。
- 2)発達に関する基本的な概念について説明できる。
- 3)胎児期・新生児期・乳児期の具体的な特徴について説明できる。
- 4)幼児期の具体的な特徴について説明できる。
- 5)児童期の具体的な特徴について説明できる。
- 6)青年期・成人期・老年期の具体的な特徴について説明できる。
- 7)各発達段階に応じた援助のあり方について説明できる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

胎児期・新生児期・乳児期

胎児期・新生児期、乳児期については、比較的新しい研究成果が多く安定しないものもあるので教科書以外の資料も参照して理解を深めることが必要です。特に、II章5項の「親と子のやりとり」については、「親と子の交流のはじまり(正高信男(編)別冊発達 19 赤ちゃんウオッチングのすすめ pp.9-16 ミネルヴァ書房。または、立元真 1993 乳児における視覚共鳴反応の発達 心理学研究 64巻 173-180.)」などを入手して理解を深めてください。また、乳児期の子どもの基本的な心的能力の発達については、下條信輔 1988 まなごしの誕生—赤ちゃん学革命—新曜社が参考になります。

昨今では、愛着の個人差の測定法としてエインズワースのストレンジシチュエーション法やウォーターズらのQソート法などが紹介されています。指定の教科書には詳しく触れてはありませんが、他の資料等を参照して、乳児期の愛着のいだき方の個人差のメカニズムを理解しておきましょう。

乳児期の思考の発達については、Piagetの感覚運動期(0~2歳)の6段階があります。指定の教科書の中では触れてはありますが、別途資料を参照して整理しておいてください。

幼児期

幼児期は、ただ可愛らしいというだけではなく、短期間に非常にダイナミックな知的・社会的発達を遂げる時期です。家庭での安定した世界での育ちから、幼稚園や保育所という新たな社会へという環境移行の中で、知的な能力・社会的な能力が大きく変容します。

一方で、しつけの問題も顕在化してきます。子どもの行動の学習や困った行動の抑止などの技法が注目をあびています。これらについては、山上敏子(監修)お母さんの学習室 二瓶社 や P. A. アルバート、A. C. トールマン(著)はじめての応用行動分析 第2版 二瓶社が理解の手助けになるでしょう。

児童期

この時期は、学校での適応や社会性、学業が問題になってきます。教育心理学の領域とも大きく関連してきますので、別途資料を読んで、知識の拡大に努めましょう。

子どもの社会性の発達を支援する方法については、社会的スキル教育が注目されつつあります。これについては、小林正幸・相川充(編・著)ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 図書文化 が参考になるでしょう。

青年期、成人初期・中期、成人後期・老年期

発達は獲得的なものだけではなくありません。また、一見、老いによって機能低下がみられるなかで、経験の積み重ねによって結晶していく方向での発達の変化もみられます。柔軟な発達観を身につけましょう。

この時期の発達のキーワードは、アイデンティティとエリクソンによる8つの段階の発達課題が挙げられます。別途資料を参照しつつ、自分なりの言葉や例を挙げて整理しておきましょう。

また、これらの時期は心の機能の性差が注目される時期でもあります。男性と女性の心の働きの違いがあるなかで、人間社会が成りたっています。性別・発達段階を整理して理解するとともに、豊かで安定した生涯発達のための柔軟な発想を身につけましょう。

発達を援助する、発達を考える際に

この領域は、臨床心理学などの他の科目とも関連します。各科目の教科書や資料を参照して、幅広く正確な知識の獲得に努めましょう。また、応用的な知識を身につけるためには、多少高度な内容になりますが、高山巖(監訳)心理療法と行動分析 金剛出版、坂野雄二(著)認知行動療法 日本評論社などが参考にできます。